



需要と価格、社会と生活

令和6年8月3日

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

生産と流通は小売とともに、自由経済システムにおいて価格の決定を与え、経済という現実が形成される。

これらは経済の絶対的な流動性が存在し、自由システムにおける現実の形成を与えることを意味する。

これらがマクロ経済を、それら現実が習合し形成するのである。マクロ経済がミクロ経済の集合体であるという現実である。

これらは価格の制定が需要を与え、経済の需要とともに企業が自己を与えられることである。

これらは製品の流通が、自由な購買という基盤において経済の決定を与えることを意味する。

これらが自由経済システムという現実なのである。これらが生産と流通をその自己の選択と決定において与えられるのである。

これらは小売という現実におけるグローバル経済における標準化と、新しい参入者における価格破壊という洗礼が存在するものである。

これらは自由経済システムが有する新しい現実であり、これらが全ての市場を占有することは存在するのである。

これらは今日における技術システムの革新とともに、新たな経済の現実の創造を与えるものである。

閉鎖された業界が崩壊することは必ず存在するのである。これらは開かれた経済は、新しい基準における自己を有することを意味する。これら標準化という現実が存在するのであり、世界におけるグローバリゼーションという黒船はこれである。

